



議員定数削減に思う

みんなで未来をつくろう!

■定数一八で市議会選挙

大野議員他四名提出による議員提案の定数削減案が賛成多数で成立した。議員定数が二〇名から一八名になり、一月の市議会議員選挙が行われる。

■答弁できない提案者

議員提案の議案なので提出議員筆頭の大野議員が質問に答えていた。一色議員の質問に対し「細かいデータを用意していないので答えられない」「事前に質問内容を教えてもらっていないので答えられない」と開き直った。質問者は自分の考えを細かいデータに基づき質問していたが、質問内容はいたって単純なものばかりだ。ぜひ市議会ホームページから録画を観て欲しい。

■稚拙(ちせつ)な賛成意見

こそが悪いと開き直る、「シナリオがないと僕ちゃん答えられない」ではあまりにお粗末だ。いつも学芸会のようなことばかりしているからこんなさままだ。

さて、議員定数削減議案の質疑や討論のなかでが民意が反映しにくくなるとの意見が反対議員の多くからでた。これに対し、賛成討論をした石渡議員は「議員は特定地域を代表するのではなく本市全体を代表していくべき」と一見もつとも聞こえることを言っていたが、実は議論が全くかみ合っていない。民意のことを「多数意見」と誤解しているようだ。ここで議論にあがっている民意とは「多様な民意」のことであり、少数(マインオリティ)意見がどれだけ民意的に議論され、反映されるのかを問うているのだ。

■少数意見は通りにくい

「議員一人あたりの人口」というのがかなりくせ者である。先ほど「多様な民意の反映」とは「どれだけ少数の意見が反映されるのか」ということを説明した。では、議員一人あたりの人口が少ない小さな市町村と議員一人あたりの人口が多い大都市の議会選挙で有権者の何パーセントの得票をとれば当選できるかを計算してみた。

次にあげる数字は、直近の市町村選挙で最下位当選者の得票数を有権者数で割ったものだ。大網白里(四年前)は一・六%だ。最下位当選者が六四五票で有権者数は四一三八三人だった。東金市は一・五%、茂原市一・二%となる。大都市の船橋市や市川市は〇・四%、松戸市で〇・五%。近隣で議員定数の一番少ない白子町では二・九%になる。議員一人あたりの人口が少ない小規模都市ほど議員定数は少ない傾向にあり、結果として少数意見は通りにくい(当選しにくい)ことになる。船橋市では有権者の〇・四%の得票数で議員になれるのだから、一定の支持が得られる特定の利益代表や小政党の代表も議員になりやすいが、大網白里ではその四倍もの得票率を稼がないと議員になれない。すでに大網白里では、少数意見は通りにくく、多様な民意を代表する議員は当選しにくいと言っているのである。例えば、今後若者が減ると若い世代の代表は選挙に受かりにくくなることも考えられる。

■良質な議員を選ぼう

議員定数削減の議論だけされることが問題なのだ。良質な議員を増やす仕組みづくりが大切だ。議員報酬や政務活動費も合わせて総合的に議論すべきだ。平均年齢六〇歳を超える退職老人ばかりの議会では四八〇万円の報酬は多すぎるだろう。報酬を少なくして定数を増やせば女性やボランティア精神あふれる人材が増えるかもしれない。一方で報酬を高くすれば民間企業や公務員から優秀な現役世代が参入してくるかもしれない。政務活動費や選挙の公費助成の透明化なども合わせて議論されるべきことだ。

質問内容は「人口が同規模の自治体議員数の平均は二〇人を超えているが、なぜ一八人にする必要があるのでか?」「提案理由にある財政悪化とはどの指標から言っているのか?」などの簡単な質問ばかりである。提出者がこのような当然予想される質問にも答えられず、質問を前もって教えてくれない方が

前のことではないのか。この議員はかつては矢祭町を引き合いにして議員定数、議員報酬の大幅削減を公約にしていたが、どうなったか聞いてみたい。彼の最近の通信によれば本市の議員数は「長生村を基準にすれば五四人」「茂原市を基準にすれば五四人」「茂原市を基準にすれば一三人程度」となり、「他自治体との比較をメインに持ち出して議員定数を考えてしまおうとこんなおかしな状態になる」と言っている。四年前は本市と全く違う環境の矢祭町と比べて議員報酬と議員数の大幅削減を公約にして当選した議員が、今は他の自治体と比べる必要はないと言っている。この議員は有権者に説明責任を果たしたのか大変気になる。

「議員一人あたりの人口」というのがかなりくせ者である。先ほど「多様な民意の反映」とは「どれだけ少数の意見が反映されるのか」ということを説明した。では、議員一人あたりの人口が少ない小さな市町村と議員一人あたりの人口が多い大都市の議会選挙で有権者の何パーセントの得票をとれば当選できるかを計算してみた。

次にあげる数字は、直近の市町村選挙で最下位当選者の得票数を有権者数で割ったものだ。大網白里(四年前)は一・六%だ。最下位当選者が六四五票で有権者数は四一三八三人だった。東金市は一・五%、茂原市一・二%となる。大都市の船橋市や市川市は〇・四%、松戸市で〇・五%。近隣で議員定数の一番少ない白子町では二・九%になる。議員一人あたりの人口が少ない小規模都市ほど議員定数は少ない傾向にあり、結果として少数意見は通りにくい(当選しにくい)ことになる。船橋市では有権者の〇・四%の得票数で議員になれるのだから、一定の支持が得られる特定の利益代表や小政党の代表も議員になりやすいが、大網白里ではその四倍もの得票率を稼がないと議員になれない。すでに大網白里では、少数意見は通りにくく、多様な民意を代表する議員は当選しにくいと言っているのである。例えば、今後若者が減ると若い世代の代表は選挙に受かりにくくなることも考えられる。

今回の定数削減議案は、これらの意見がきちんと議会で議論されて採決になったのだろうか。学芸会のシナリオがないと答えることもできない議員に望むべくもないが、次の選挙ではもう少し良質な議員が選ばれることを期待したい。

くろす 黒須としたか

前・大網白里市議会議員

無所属48歳

事務所:大網白里市大網33-8サンモア内(トップマート近く、まちサポ向かい)
電話 0475-73-4126(ナミヨイフロ) 自宅電話 0475-73-8615 FAX 0475-70-2666
http://www.geocities.jp/ooamicross/ Eメール:ooamicross@ybb.ne.jp

黒須としたか・プロフィール
1967(S42)年1月16日生まれ。
大網小・大網中卒業、長生高卒業、千葉大学法経学部卒業
会社員・印刷店経営を経て、
2003年町議会議員初当選
2007年11年連続トップ当選
2014年市長選挙立候補
家族:両親 妻 息子(12歳・9歳)
趣味:登山・読書・料理

誰のためのルールなのか？

★円滑な議会運営って何？

議論をする時間を少なくして、できるだけ早く議事を終わらせるのが良い議会だと考えている議員が多い。歴代の議長はいつも「円滑な議会運営」を議員に対して迫っている。大きなお世話だ。余計な質問などしないでさっさと市長提案の議案や予算案を通してくれと言っているのに等しい。議会は侃々諤々（かんかんがくがく）議論を戦わす場所ではないのか？「円滑な」と言うなら、議長や事務局がしっかりと憲法や地方自治法を勉強して円滑な議事運営に努

★議員の時給は5万円超？

田中議員が調べたところ、議員報酬を日当に計算し直すと一五万円になるそうだ。予算決算委員会や議会運営委員会に出ない議員は二〇万を超えるかもしれない。議会が半日で終わる日も多いので仮に一日四時間だとすれば時給五万円以上になる。医者並みの高給だ。議案や予算案をしっかりと調査せず、議会中にカラオケしたり、半分寝ているような議員にとってはエライ高給とも言える。にも関わらず、しっかりと議案や予算書を

読んで、きちんと質問する議員を疎（うと）んじる風潮が大網白里市議会にはある。他の自治体も似たり寄ったりだが、国会を含めて日本中の多くの議会が異常と言える。

★議案の質問は3回まで？

大網白里市議会のルールで議案質疑は3回までという取り決めがある。全くおかしい。3回などというばかげた取り決めがあるおかげで、1回目の質問でまとめて延々と質問をしなければならなくなる。問題点の多い議案を多岐にわたって質問していると傍聴者だけでなく、質問者も答弁者も混乱する。後から答弁漏れがあったことに気がつくこともある。

★市民のための議会づくりを

市民にとって望ましいのは一問一答方式・時間無制限に決まっている。このやり方でいったい何の問題があるのか。これまで一度たりとも夜を徹して議会が続いた事などない。それどころか夕方五時を過ぎることなど減多にない。質問時間（回数）を無制限にしても少々時間が延びる程度のことだ。一問一答にすれば議論もわかりやすくなり、答える側も質問する側もい加減な質疑応答でごまかすと、傍聴者にすぐばれる。議会を早く終わらせて家に帰ってお茶を飲みたいのなら、最初から議員になるな。それこそ市民に迷惑だ。

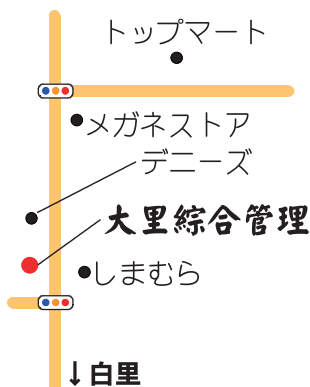
●房総スローライフ紀行⑧

地球塾 講師：横井陽一先生
中国茶芸ってどんなもの

参加費 500円
0475-72-3473
第3月曜日 10月19日/11月16日
13:00~15:00
会場 大里綜合管理棟 2階

※スローライフ：文化、生活全般に「ゆっくりゆったり」を取り入れて、豊かさを見直していくスタイル。これに大きく影響を与えたのがイタリアから始まったスローフード運動。次の三つを掲げる。①伝統的な食材や料理、質の良い食品を守る。②質の良い素材を提供する小生産者を守る。③子供達に味の教育を行う。

烏龍茶で世界最高品質の中国武夷岩茶。聞香杯（もんこうはい）という細長い杯に茶を注ぎ、これを別の茶碗に移した直後の香りを楽しむ。それから茶をじっくりと味わう。同じ茶葉で二煎、三煎と香りや味の変化を楽しむ。七煎までしてから白湯でお菓子を食べるのが横井流。冷茶や台湾茶などの飲み比べもある。



ここでも無駄遣い 政務活動費

議員は、報酬とは別に政務活動費を貰っている。もともと政務調査費と呼ばれていて「調査研究」目的に議員に支給されていた。それが最近地方自治法が改正され、政務活動費と衣替えをし、大幅に使える項目が増えた。例えば自民党の議員団が国会陳情に行く交通費なども認められる。

大網白里市議会では、黒須の提案で、政務活動費になっても支出項目の拡大はされなかった。それでも議員の裁量に任せられている部分が多く問題が多い。

★議員の携帯電話代も税金で？

例えば公明党の議員団は、党の決めた按分で自分の携帯電話代を政務活動費から出している。自分の携帯電話は自分が使

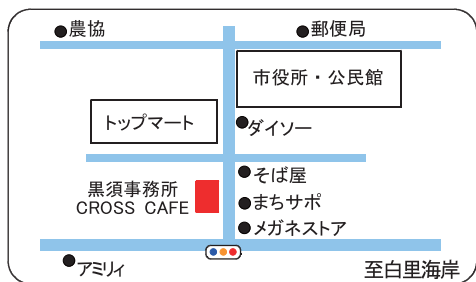
利だから使っているのではないのか。

大網白里市の政務活動費は、5万円程度ではあるが、今後増える可能性もあるし、例え額が少なくとも全て市の税金から払われるのだから市民に疑念を起こさせる使い方を認めるわけにはいかない。

★第2の報酬？

千葉県議会の政務活動費は議員1人あたり上限420万円だ。しかも無税。報酬を二重に貰っているようなものだ。大網白里市選出の阿井伸也県議は420万円の政治活動費の中から3人の事務員に報酬を払っている。政務活動費は本来の趣旨から離れて、第2の報酬として機能しているのが実体だ。

CROSS CAFEがオープン中!



人とまちの交差点、交流スペースクロスカフェ
午前10時半～午後6時
トップマートの近く
電話：73-4126

ここでも無駄遣い 選挙費用助成

もともと立会演説会の会場費や公選ハガキの郵送料など公職選挙法で決められた選挙助成がある。それとは別に自治体が独自に決めているものがある。

この条例が初めて適用されたのは昨年末の市長選挙だった。金坂市長は自分の市長選挙の前にこの条例を作り、数十万円と推定される（上限は約82万円）ポスター代や選挙カーのレンタル代・ガソリン代などを税金から支出している。この条例は欠陥だらけの条例で、適正な額が請求されているか業者任せだ。悪徳業者も悪徳候補者も存在しないという前提で作られている。全国の市民オンブズマンは

多くの不正を追及した。八街では、業者から候補者へのポスター代キックバック（返金）があった。宣伝カー以外へ不正給油も各地で行われた。この不正の温床とも言える公費助成条例は、少なくとも不正防止措置がとられるまでは凍結すべきだ。

自分の選挙費用捻出を自作自演した市長と現職議員は市民に説明責任を果たすべきだ。この欠陥条例に賛成したのは自民党、公明党、共産党と大野議員の11人。辛うじて通過した問題だらけの条例だ。候補者の皆さん、この制度を利用せず、次の選挙までに廃止または改正すべく立ち上がりましょう。

あれこれ

▼黒須をいつも応援していただきありがとうございます。黒須は元気です。これからもしっかりと闘い続けます。議会は危機的状況です。そのために今回は仲間と共に闘います。黒須がかつて一緒に会派を組んでいた「市民の会」の仲間も引き続き二名出馬します。みずほ台から女性の新人が立ちます。二〇代の若者も立ちます。みどりヶ丘では初めて新人が立つようです。改選後の議会を少しでも良くし、そして市政に反映できるように頑張ります。▼日本ウミガメ会議初回の関東大会が一宮町で開かれます。11月27日から三日間。詳しくはウミガメ協議会ホームページへ。